

（一社）日本鉄鋼連盟ご説明骨子

＜業界実態＞

重量物・長大物輸送で制約が大きい中で大量の鋼材を供給し続けている。また港湾関係者の皆様をはじめ、内航船員、トラックドライバーなど多くの物流事業者の皆様に支えられており、この場で感謝申し上げる。

鋼材トラックドライバーの平均年齢上昇については明確なデータ有。よって 2024 年問題が騒がれる以前から業界課題として物流の効率化に取り組んできた。港湾でも課題共有のために客観的データ提示が必要。

＜要望、提案＞

鉄連では物流に関する会議体として物流研究会、製品物流小委員会を毎月開催。

現在は 2024 年問題への対応としてトラック輸送を中心に議論しているところ、トラックに導入できた措置なら他分野へ安易に展開できるだろうという議論がありがちだが、港湾に関しては議論が全く出来ていないので深い議論を積み重ねる必要あり。その大前提として、国土交通省殿による客観的・定量的な現状の分析による港湾事業者の窮状の構造の相互認識なしにはガイドラインの議論に進むことはできない。また錚々たる委員の先生がいらっしゃることから客観的・定量的な現状の分析に対しご示唆頂ける体制と認識。

＜まとめ＞

物流網を途絶させず、変化に対応していくことは、日本経済への貢献に直結。港湾関係者と共に、持続可能な物流網の維持・効率化に取り組んでいきたい。

その第一歩として、定量的・客観的に港湾事業者の窮状の構造を示す説明を頂き、相互理解を深めたい。これなしにはガイドラインの議論には進めない。国土交通省殿におかれては建設的な議論となるよう会議運営頂きたい。